

少しずつ寒さが緩み、春の気配を感じますね。学年末考査も終わり、時間に余裕のある今こそ、読書にうってつけです！さあ、図書館便りを片手に、新しい本とどんどん会いましょう！



今月号で紹介された3冊は、いままでにも何度も紹介されたことがある人気の本です。たくさんの図書委員さんに支持されているこれらの小説、まだ読んでいない人、春休みにどうでしょうか？

○13HR図書委員東條のオススメ

書名 『やはり俺の青春ラブコメはまちがっている』
著者名 渡航

「青春とは嘘であり、悪である。」性根がひねくれている高校2年比企谷八幡は担任の先生の平塚静にひねくれた根性をたたき直すために「奉仕部」に入部〔強制〕させられます。八幡が入部した(させられた)奉仕部には学校一の美女雪ノ下雪乃がいた…。

従来のラブコメ作品であるならば、このままテンプレか、それに一捻りくらい加えるものが多いのですが、この作品はとんでもないくらいぶっ飛んでいます。ラブコメだからコメディ要素が強いのと思っていたら、急にラブ要素が強くなったり…とかなり物語の展開が急激です。この作品は高校生が主人公なので、私たちが読むのに適していると思います。図書館にありますので、どうぞ。



○13HR図書委員尾西のオススメ!

書名 『青くて痛くて脆い』
著者名 住野よる

相手を不快にさせないようにと生活する僕は、大学1年の授業で秋好と出会う。「理想」を掲げる彼女は、幾度となく授業を止めて周りから嫌みを言われていた。純粹で青くて痛い彼女と昼食を一緒にとる仲となり、「なりたい自分になる」サークル「モアイ」を作る。3年後「モアイ」は2人で作った「モアイ」でなくなってしまった。僕は「モアイ」を取り戻すために動き出す…。

『君の膵臓が食べたい』の著者が描くリアルな人間関係。2020年に映画化もされた渾身の一作。ぜひ読んでみてください。他にも『また、同じ夢を見ていた』、『よるのばけもの』などの著書もオススメです。図書館にあります。ぜひ読んでみてください。



○14HR図書委員樋口のオススメ!

書名 『レインツリーの国』
著者名 有川浩

今回紹介するのは、『図書館戦争』の作者でもある有川浩さんの『レインツリーの国』です。この本は恋愛小説ですが、「恋愛小説が少し苦手」という人でもすらすら読むことができます。主人公の伸とひとみはお互いに惹かれ合っていますが、恋愛経験がほぼ無い2人の不器用な姿に心が和みます。

私が好きな場面は一番はじめの伸とひとみがネットでやり取りをする場面です。なぜなら、2人の出会うきっかけでもあり、また、2人が小説が好きだということがよく伝わってくるからです。

朝のちょっとした時間や、移動するときの隙間時間に読むことをオススメします。とても温かいお話なので、是非読んでみてください。



今年度も図書委員さんのご協力の下、
たくさん本を紹介することができました。
来年度も、新しい本とたくさん出会えますように…。



